

数值解析入門

1. 常微分方程式の時間積分

1. Time Integration of Ordinary Differential Equations

コンテンツ

1

小球の自由落下

2

シミュレーション

3

Python・MATLABによる実装

コンテンツ

1

小球の自由落下

2

シミュレーション

3

Python・MATLABによる実装

1. 小球の自由落下

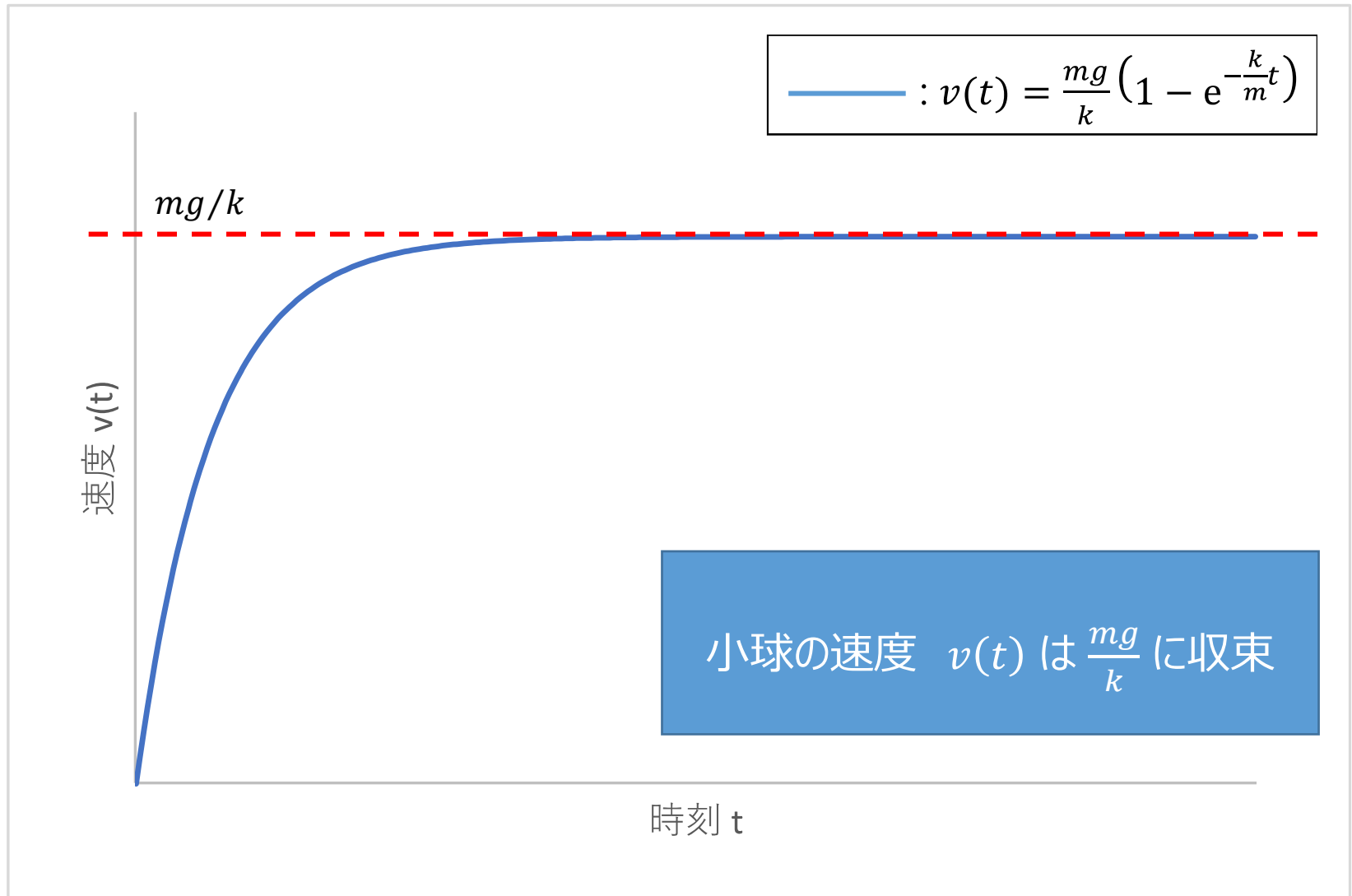
微分方程式

$$m \frac{dv}{dt} = mg - kv$$

特殊解
($v(0) = 0$)

$$v(t) = \frac{mg}{k} \left(1 - e^{-\frac{k}{m}t} \right)$$

1. 小球の自由落下



コンテンツ

1

小球の自由落下

2

シミュレーション

3

Python・MATLABによる実装

1. コンピューターができる計算・できない計算
2. シミュレーションの方法
 - A) 離散化 / Discretization
 - B) 実際の計算

2-1. コンピューターができる計算

四則計算のみ！

2-1. コンピューターができない計算

例：空気抵抗を考えた自由落下

$$m \frac{dv(t)}{dt} = mg - kv(t) \text{ の解を求めよ.}$$

ただし $t = 0$ のとき $v = 0$ とする.

解

$$v(t) = \frac{mg}{k} \left(1 - e^{-\frac{k}{m}t} \right)$$

コンピューターは
「変数分離して両辺を積分」
という計算をできない

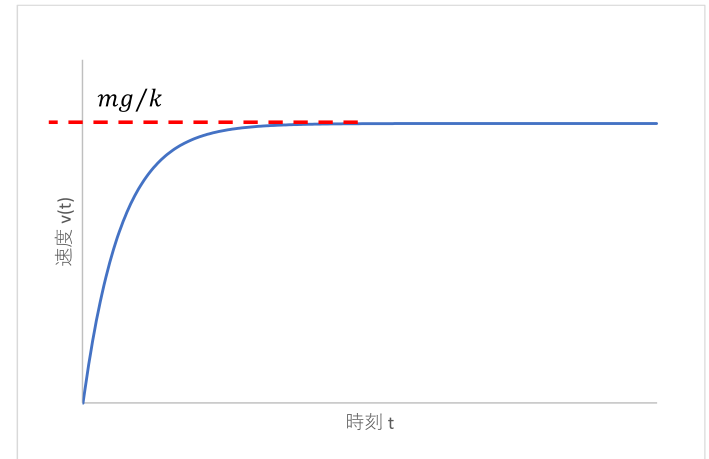
2-2. シミュレーションの方法

問題：空気抵抗を考えた自由落下

$$m \frac{dv(t)}{dt} = mg - kv(t)$$

空気抵抗を考えた自由落下の速度変化をシミュレーションせよ.

ただし $t = 0$ のとき $v = 0$ とする.



小球の速度 $v(t)$ が $\frac{mg}{k}$ に収束することを確認

2-2. シミュレーションの方法

コンピューターは四則計算しかできない。

シミュレーション（コンピューターで計算）するために...

$$m \frac{dv(t)}{dt} = mg - kv(t) \text{ の } \frac{dv(t)}{dt} \text{ を } \underline{\text{四則計算}} \text{ で表したい！}$$

2-2-A. 離散化 / Discretization

微分の定義より

$$\frac{dv(t)}{dt} = \lim_{\Delta t \rightarrow 0} \frac{v(t + \Delta t) - v(t)}{\Delta t}$$

Δt が十分小さい時

$$\frac{dv(t)}{dt} \approx \frac{v(t + \Delta t) - v(t)}{\Delta t}$$

これを元の微分方程式に代入すると...

2-2-A. 離散化 / Discretization

$$m \frac{dv(t)}{dt} = mg - kv(t)$$

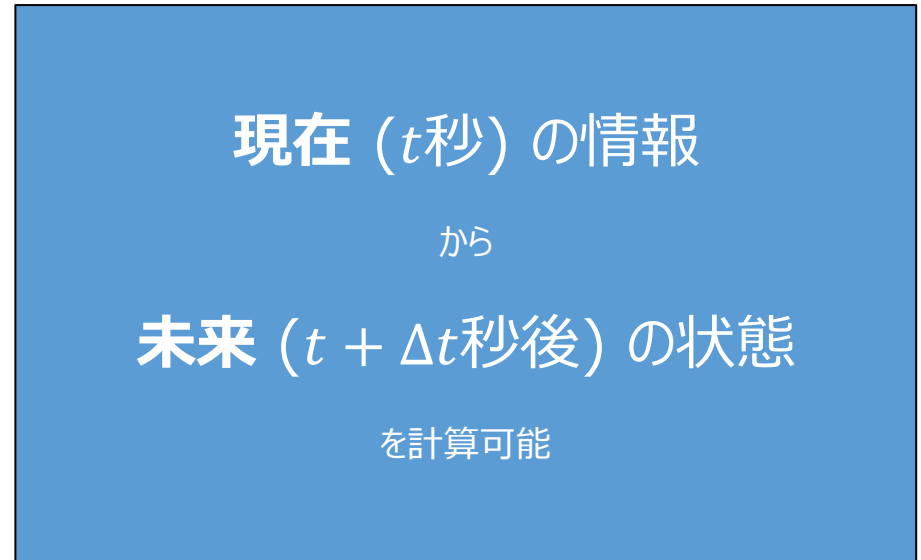
$$m \frac{v(t + \Delta t) - v(t)}{\Delta t} = mg - kv(t)$$

$$\frac{v(t + \Delta t) - v(t)}{\Delta t} = g - \frac{k}{m} v(t)$$

$$\boxed{v(t + \Delta t)} = \boxed{v(t) + \Delta t \left(g - \frac{k}{m} v(t) \right)}$$

未来

現在



2-2-B. 実際の計算

$m = 1.0, g = 9.8, k = 10, \Delta t = 0.01, v(0) = 0$ のとき

シミュレーション

$$v(0.01) = v(0 + 0.01) = v(0) + 0.01 \times \left(9.8 - \frac{10}{1.0} \times v(0) \right) = 0.098$$

$$v(0.02) = v(0.01 + 0.01) = v(0.01) + 0.01 \times \left(9.8 - \frac{10}{1.0} \times v(0.01) \right) = 0.1862$$

:

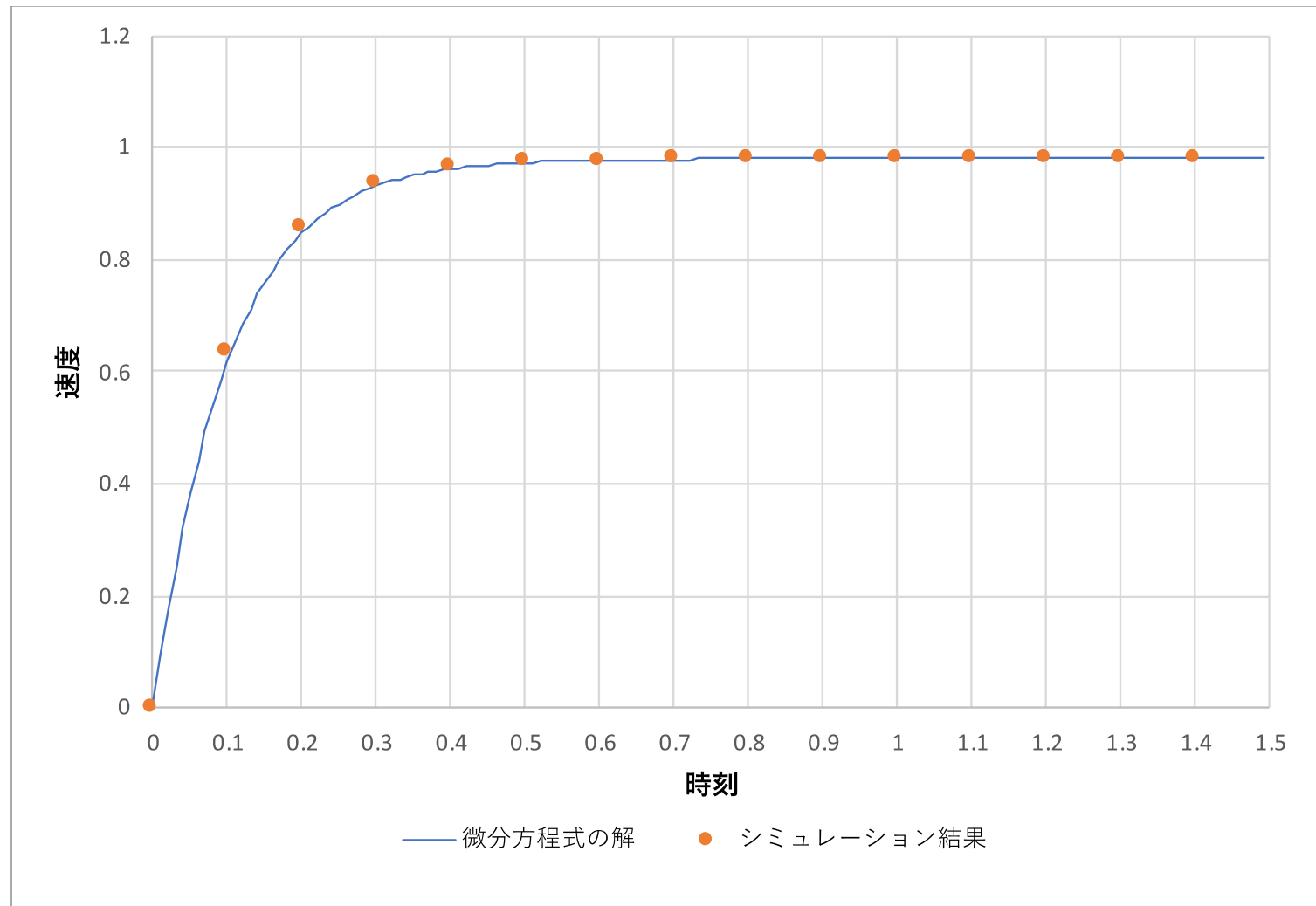
$$v(1.50) = 0.97999986 \dots$$

解

$$\begin{aligned} v(1.50) &= \frac{mg}{k} \left(1 - e^{-\frac{k}{m}1.5} \right) \\ &= \frac{1.0 \times 9.8}{10} \left(1 - e^{-\frac{10}{1.0} \times 1.5} \right) \\ &= 0.9799997002 \dots \end{aligned}$$

シミュレーション結果と
微分方程式の解がほぼ一致

2-2-B. 実際の計算



コンテンツ

1

小球の自由落下

2

シミュレーション

3

Python・MATLABによる実装

3. Python・MATLABによる実装（20分）

$$v(t + \Delta t) = v(t) + \Delta t \left(g - \frac{k}{m} v(t) \right)$$

Input Parameters

m : 小球の質量

g : 重力加速度

k : 空気抵抗の定数

v0: 初速度

dt: 時間間隔 Δt

t_max: シミュレーションを終える時刻

Calculation

t :

i : 計算回数のカウンター

v_hist : 計算結果を記録する配列

t_hist : 計算時刻を記録する配列

while True:

i(≠0) 回目の計算

v = v_histに含まれるデータ,
Input Parameters

t = 時間ステップの更新

if t が t_max以上

while Loopを抜ける

i = #計算回数の更新

t_histにデータを追加

v_histにデータを追加